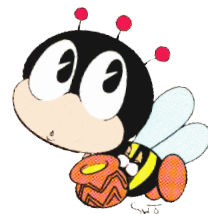


令和元年度



社会教育・公民館等職員研修会Ⅳ (兼) コミュニティづくり研修会 2

受講者振り返り

シート集

日時：令和元年12月10日（火）

午前9時55分 ～ 午後4時00分

場所：宮城県行政庁舎 講堂



主催：宮城県教育委員会・宮城県公民館連絡協議会

宮城県社会教育・公民館等職員研修会Ⅳ 振り返りシート（令和元年12月10日）

1 午前の研修内容をとおして、気づいたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かせると思いますか。

これまで地域を一つのチームとして考えたことがなかったため、遠藤先生のワークはとても新鮮でした。グループの中で出た「常にチームとしてまとまっている必要はないけど、何か課題があったときに、「協力し合える関係づくり」にも共感しました。「何か」のときにチームに参加してくれる人を増やす為にも、日々の地域情報の収集、住民、来館者との交流、気軽に来られる館づくりをしていきたいと思います。

- ・反省ではなく、振り返り、その方法。
- ・白石市、指定管理でも地域に密着した運営、ただ、その大変さ。

まずは、遠藤さんによるワークショップがとても効果的でした。「地域とはチームになるのか」という、今私自身が求めている課題をテーマに進められたことにとっても充実したグループワークができました。時間がなく、グループで共有しきれませんでした。が、「地域とは、様々なチームが絡み合って、誰も落とさないワンチームであるべき」という自分の考えを導き出すことができました。

この考えを現場で活かすためには、

- ①個人で工夫できることとして、様々なチームに顔を出して知り合うこと。
- ②身近な人（知り合った人）とやりたいこととして、話し合うこと。
- ③組織（職場）でやりたいこととして、話し合いをベースに提案すること。です。

そのために、白川公民館が機を見て行動したように、まずは、「開講の意向なし」とした「令和2年度みやぎ県民大学」について、再検討したいと思います。

3人グループでの話し合いは、一人一人の思いが聞けたので良かった（匂を逃さないことも大切だと感じた）住民の声を大切にする（反映する）上で、このような少人数のワークショップも必要だなあと感じた。今日のワークショップでいろいろな情報交換ができたこと良かった。

公民館で求められていること。未来像の情報共有をした際に出た意見を明日からの職場に反映させること、上司や後輩に情報共有すること。

職員の人員配置等の重要性を考えさせられました。

「個人でできること、身近な人とやりたいこと、組織で何ができるか意識すること」この3つを念頭に置いて、振り返りをする事、そして共有し、PDCA サイクルを回していくこと。課内、係内でもっと打合せ、雑談（気軽に話せる時間）の時間を増やすこと。

「開かれた公民館を目指す」という合言葉のもとに、白川公民館の館長と事務局長が取り組んでいるという事例発表を聞き、共通の目標を持って取り組むことの大切さを学ぶことができた。自分の職場でも目標や課題を共有していきたい。

これからの公民館の存在意義や在り方は、地域住民も職員（行政）側も悩んでいる部分だと思う。「開かれた公民館」は互いの意見をすり合わせる良いコミュニケーションの場だと思う。互いの意見のすり合わせができていないうちは本当の課題も出てこないのではないか。

1 午前の研修内容をとおして、気づいたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かせると思いますか。

「公民館は縁側」との言葉がとても印象に残りました。地域と行政の中間としての働きが必要だと思いました。

指定管理制度を導入したときの生涯学習課（行政）の関わり

チームづくりの概念をあらためて考える事が出来た。地域を全てワンチームとして考える事は、仕事として言葉としては簡単に考えてしまうが、自分の実際の生活と照らし合わせてみると難易度は高いが面白そうだと感じている。少子高齢化社会の現代社会、今後の日本にとって必要な考え、視点を考えさせられた。

「チーム」とは・・・学校現場でも沢山のチームがあり、必要な要素や大切なことが考えられた。様々な意見を聞くことができ、大切にしていきたいことを改めて実践したいと思った。

○「ふり返ることの意義」について、目からウロコの部分がありました。企画すること。実践すること。継続することも大切だけれども、終わらせることもまた大切なことであるということです。これからの仕事に活かしたいと思います。
○3人構成の話し合い（ワーク）は本音を出しやすいなと思いました。もっと時間が欲しかったほど。

ふり返りの仕方、いろいろな場面で活用出来るし、自分達のやっていたことの意義を改めて実感できて良かったと思える。活用していきたい。

公民館職員の方々とのグループで活用についてや、イベントの関わり方を教えていただき、今後の学校と公民館のスタンスや関わりについて話せたことは良かったです。機を逃さないふり返りについては、すぐに現場でやっつけようと思いました。

地域をどのようにチームとして考え、機能させていくのか。立場や役職によって考えや普段の役割が違うので難しいテーマだと常々感じている。その中で地域の範囲をそのレベルで設定するのか（町内会や学区など）行政主導で話し合いの場を目的をもって設定して継続していくことで見えてくる（理解し合える）ものがあるのではと思う。

- ・発表内容が現状把握がしっかりしている→今後の課題が明確化した。
- ・会合内容、遊びを通してわかりやすく見ることが出来た。→参画意識を持つことが出来、今後も大いに活かしたい。

情報の共有、それをつなぐ役割を担えるようになりたい。

「地域はチームなのか」という声に対して皆さん今はチームになっていないと言っていた。私も同感だった。所属しているだけで顔も出さない方々をどうするか。コミュニティ力の低下にどう歯止めをかけるのか、難しい課題であると思う。現場では「地域」を愛し、所属し、誇りに思うような指導を心がけたい。

公民館活動の重要性と重大性の認識。

1 午前の研修内容をとおして、気づいたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かせると思いますか。

・「チーム」について、日々の業務を振り返りながらも考えることで、連携や協働の在り方について再考することができた。(目的・目標の共有、役割の明確化と自立) これは、現在展開している「子ども参画型社会創造支援事業」に取り組んでいる区拠点館や地区館と、業務評価をする際の一観点として生かしたい。

・「ファシリテートすることの意義・重要性」を遠藤智栄さんの実際から学ばせていただいた。意見をいかに引き出し、チーム内での熟考(議論)につなげるか、日々意識し業務にあたりたい。

少人数で全員に発言を求めていくというワークの手法は非常に学びになった。いかに参加から発言を引き出しておいて、チームになれるようにすることが重要だと分かった。

- ・公民館と地域住民の関わり方→自分自身が公民館に入っていかなければと思った。
- ・公民館便りやチラシを学校でそのまま子ども達に配布している。
→一文でも読み上げ、参加を促していく。

反省会ではなく、振り返り、考え方一つで悪い点だけでなく、良さを活かすことができると気付くことが出来ました。学校現場でも反省会はよく行っていますが、意識を変えていくために「振り返り」としていきたいと思います。また、旬の話題を逃さないという所や公民館と学校・地域を結びつけるにはどうしたら良いか等、課題も多く見つけることができ、自分がまず公民館に行ったり学校の何かイベント等で使ったりと今やっていることを更に増やしていきたいと思います。

白川の公民館の昔と今から、開かれた公民館を目指すことは大切だし、また住民の協力が不可欠だと思った。

白川地区の事例を聞いて改めて地区の一番の拠点としての機能を必死で守ろうとしている方がいるからこそ、公民館の存在意味が社会にとって欠かせないものとして位置付けているのだと感じました。開かれた公民館、開かれた学校にしていくために「自ら動いて他を動かす水のごとし」を心に留めておきたい。

「チーム」とは?という問いかけに対して、グループの方々とどんどん意見交流出来ました。地域をチームとして考えていくと、地域に必要なことは何かをいろんな視点で話せました。自分自身の考えとしては「チームキ地域」という考えがあります。しかし、何かの際にはチームになる必要があります。そのチームを公民館や行政職員が支えていくことが普段から必要なのかなと感じました。また、3人でのグループは良かったです。ファシリテートも体験出来ました。

- ・3人でのグループワークは話しやすかったです。
- ・「チーム」について、感覚でしか捉えていなかったと感じました。言葉、文字にすることで「チーム」が具体的になりました。町をチームにするのは難しいと思いますが、手立ても沢山出てきて、新しい視野が開けたと思いました。

- ・一人、一人の意識・変化が重要、自分ごととして捉える。
- ・ファシリテーターの重要性。

午前中の研修から3つのことを考え、現場でも活かしたいと思う。

- ①コミュニケーションの重要性 ②夢を現実にする行動力 ③振り返りと実践

1 午前の研修内容をとおして、気づいたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かせると思いますか。

事業の後の「振り返り」を行うこと

チームづくりについて、様々な立場の人達と話し合ったことで、自分だけでは気付かなかった要素や方法について知ることが出来ました。既存の組織（チーム）に対して、今日、話し合ったこと、気付かせてもらったことを活かして関わっていきたいと思います。

チームワークの大切さ
同じ目標に向かっていく
個人主義にならない、など改めて気付かされた。

「振り返り」の時、紙に書く。時間・場を区切る。タイミングを逃さずに等役立つヒントをいただきました。

「地域をチーム」の考え方は、学校内でも活かせると思いました。また話し合い（振り返り）の4つの手法は、これから年度末を迎え話し合いの機会が多くなるので、私が担当する会議では、これらを使い分けて行っていきたいと思います。

遠藤先生、ワークショップのメンバーの方からも教えていただいたKPT法がとても参考になりました。今後の事業また、職員間で共有し、実践していきたいと思います。タイミングを逃さず、話し合いを続けていく中で、目的やそのプロセス、各々の思いを共有することが次につながっていくと考えます。

「チーム」という言葉は普段から職場でも使いますが、その定義について改めて考えたことで、チームづくりの難しさ、そして楽しさ、素晴らしさを感じることができました。

地域活動や公民館が活気あるもの、場所になるためには、住民の誰もが来やすい雰囲気作りが大切だということにあらためて気づいた。普段から所属の公民館では職員同士も仲が良く、職員と知り合いの市職員やOB、地区の会長等はお茶飲みに来るが、その間口を一般住民にも広げても良いなと思った。→集まりやすい公民館につながるかも。

振り返りシートの活用と振り返りをして「全部やろうとすると失敗する」なるほどと思った。早めに振り返りをする（タイミング）。話し合いのプログラムを上手く活用できれば良いと思う。

公民館の在り方、将来像。そのために職員が出来ることを学んだ。地域交流を深めることで、地域の課題が見えてくるようになることも学んだ。振り返りの重要性を学んだ。

「地域とはチームなのか」をグループで考える中で、やはり共通の目的をもって参加する人が増えないとチームとは言えないと感じました。白川公民館の事務長さんの表裏のないお話を聞いて「開かれている」とはどういうことかと考えました。学校でもコミュニティスクール化が進む中、地域に対して壁を作っているようではダメだと感じました。子どもがいなくても気にかけてもらえるようなオープンさをもてるように意識して取り組むことも大切だと思いました。

1 午前の研修内容をとおして、気づいたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かせると思いますか。

指定管理制度の公民館の運営や組織について伺うことができ良かった。

「縁側」という視点から関与する我が公民館の変化の一端を事例発表させていただいた者です。その中で気づかされたことが、図書室という名の部屋があるにもかかわらず、肝心の図書があまり利用されないため本館返却の状況にあることです。「いい本との出会いは人との出会いに似て伝えなくなる。」本事例をまとめる際、力になった本が『プロジェクトはなぜ失敗するのか（日経BP社）』『WM（公財）せんだい男女共同参画財団情報誌・特別号』『そろそろ「社会運動」の話をしよう（明石書店）』などであっただけに、これを機会に、足元にあるこの図書館をもう一つのコミュニティづくりの縁側として光を当てていきたい。

読書する習慣は間違いなく、学び、考え、行動する基礎体力になることを日々実感させていただいているからです。

ファシリテーションの技法をうまく活用することで、建設的な振り返りを行うことが出来ると感じました。

学校現場にいと公民館の役割などについて考える機会が少ないが、公民館が開かれた公民館であることで、地域づくりにつながっているのだと気づいた。学校行事などを公民館とつながり、実践する機会を設けたい。（管理職と相談しながら）

職場のチーム作り、地域をチームに！が私の今後方向性になるような気がした。地区公民館の働きが素晴らしかったです。

イベントや行事の後に反省会を実践しています。すべての改善点に取り組むことは不可能であり、ポジティブな振り返りが必要であることや、続けるべき事とやめるべき事の判断、優先順位を考えたいと思います。

各地域、公民館での問題点をしっかり振り返る事が大切で、今後進んでいく事が見えてくると感じた。

公民館が地域と共にチームを作っていくためには、住民一人一人が意識をもち、話し合いをしていく活動が必要だと感じました。その意識は、日頃感じている地域での困り感や、必要なものなどのハード面など、様々な面があると思いますが、そのニーズに応えるための場の設定などをする役割が公民館にあるのではないかと感じました。違った職種の方々の色々な視点が勉強になりました。

「振り返り」とは今の自分をとらえ直すこと。客観性、主観性があっても良い。全てのスタートにもなるし、自己の考えの深化、確認ができる。そして、それを受け止めてくれる仲間がいるとなお良い。

チームと地域

チームの要素を考えた場合、地域だけでなく学級と置き換えて考えることもできる。本当の意味でチームになれるように中学生に所属感を味合わせ、チームとして取り組んだ達成感を実感させたい。

1 午前の研修内容をとおして、気づいたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かせると思いますか。

集いやすい公民館である為には、人を大切に思う気持ちが基本であり、常に初心を忘れる事なく、公民館職員としてスキルアップしていきたいと思います。

市から離れた公民館の素直なお話を聞くことが出来た。

振り返りの必要性和タイミング。話し合う振り返りを職場において実践すべきであると思いました。

改めて「地域」を捉えることが必要だと感じた。施設がターゲットとすべき市民、課題は何か（→職員の興味に引っ張られるのではなく、客観視することが大事）

イベントなどがある時にチームになるが、チームを作るためには人とつながりを持ち、リーダーの育成などもしていく必要がある。←グループでの話し合いより。

人とのつながりをつくれる場として、公民館をどう活用していくか。沢山考えた内容でした。もっと公民館を活用したいと思います。

何かの話し合いで多数決をとるのではなく、一人一人に発言してもらって意見を聞く！とても重要だと思う。なかなか一人だけ意見を言うのは難しいことですが、皆が一言ずつ発言する場があれば色々なことが見えてくると思いました。

白川の事務長さんのお客さんに寄ってもらいたい、でも忙しい。というお話は身につまされました。でも公民館の一番大事な部分だなどと思いました。生涯学習事業の見直しを行って、お茶飲みに誘える公民館に（今もやっていますが、より以上に）したいと思います。



2 午後の2事例をとおして、気付いたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かしていきますか。

旬の学習テーマを逃さず住民の興味関心に応えること、賛成派だけでなく、反対の立場の人にも協議に加わってもらい、不参加の人も情報を共有できるよう工夫すること。白川公民館の方は地域委託での運営を活かして、とても丁寧に地域ニーズの把握と対応をされていらっしゃるなど思いました。現在担当しているボランティアの支援のポイントとして活用していきたいです。

ワークショップを行う中で、10年後の地域を考えたとき。正直、何もイメージ出来なかった。しっかりビジョンを描いて業務をしなければと思いました。

午後の事例からは、谷岡氏の青年時代に経験した、雑多な人々の集まりやその場が結果として自分を成長させる場であること、また、PTA等の諸団体が消極的活動となっている現状があることを考えさせられた。

本町において、そのような場があるのかないのかを知るとともに、その場への理解や共感者を増やすためにどうするのか。また、諸団体の活動状況を把握するとともに、積極的な活動にしていくためにどうするのか。これらについて、まずは、行動していきたい。

青年事業の難しさを痛感した。ただ、だからといって何もしないのではなく、当事者に聞いたり、相談したりしながら青年事業を展開していくことのヒントを得たので、現場で活かしていきたいと思った。

地域団体の事務局をしているが、その中で子ども会育成会がある。地域のため、子ども達のための活動だが、役員は仕方なく任期が終わるまで活動に参加しているのが見受けられる。主体は団体だが、主体のやる気のなさを見ると事務局としてもやりがいが見出せない。その中で団体との上手な付き合い方を知りたい。(事務局として)

青年の参加についていろいろ教わりました。

「専門職の存在意義」という言葉が印象的だった。行政職(プロパー)ではなく、教員籍の行政職員(社教主事)としての視点をしっかりと持ち、これから職場で励んでいこうと思った。

よりよい事業を行っていくために反省会ではなく、振り返りを実践していきたい。

振り返り、反省会はタイミングが重要だと思った。イベント終了直後の気分が上がっている時や時間がたってからではなく、しっかり冷静に評価を出せるタイミングをつかみたい。また、公民館側(職員側)の考え≠住民の考えではないなと改めて認識できた。

青年世代が公民館に来ないのはどこも同じ。それに対する対応などをいろいろな市町村と考えさせていただきました。

地域の活動に子ども達を送りこむことだけでも、学校が地域共同でできることだと感じた。

地域を知り、地域の人とのつながり、それを伝えつなげられるようになりたい。

2 午後の2事例をとおして、気付いたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かしていきますか。

公民館についての話し合い活動を通して「地域の未来を話し合う場～ファシリテーションの具体」という事で様々な角度から話し合いを行った。話し合いの方向性や手順の方法について、大変勉強になりました。また、同じグループの人達と情報の交換ができたことについて有効であった。現場でも社会教育の視点で学習をすすめたい。

人が顔を合わせることは、地域づくりで大切なことではあるが、青年世代が公民館、地域事業に参加しないことが課題である。未来を担う世代である子どもが地域に参画することを促すためにも各世代に向けた取組が必要だと感じた。

生涯学習の現場に長く携わってこられた谷岡先生のお話は、大変興味深いものでした。特に社会教育主事として、生涯学習計画に社会教育のビジョンを盛り込むことに奔走したことなど、専門職としての存在意義を示したのはすごいなと思いました。やっぱりこういう方がいてこそ、社会教育の涵養につながってきたと思います。

質問 行政施策への自発的な参加を求める「地域づくり」とは、どのようなことですか？

P T A活動をポジティブな体験に変えていくには、どうすべきなのかを考えていきたい。P T A活動が地域の支えとなる活動の人口になっていることを意識したい。

10年後の社会教育・公民館を考えたとき、アナログの必要性を感じるのではないかと話が出ました。(グループ)

現場では、ミーティングのやり方を改善し、伝達会議ではなく、意見を言い合える場の設定を上司とともに変えていこうと今年度末までにしていこうと思います。

地域への思い、民営化したことによる課題、P T A活動が地域活動をポジティブにするためにはどうすればいいか。公民館の存在意義、「やりがい」頼りの現状でいいのか…。様々なテーマがグループの中で議論され、見方、考え方に触れられて刺激を受けた。午前から午後にかけて「チーム力」や「振り返り」というワードが出てきたが、特に振り返りの意図や効用を生徒に事前指導した上で活かしていければと思う。

- ・参加者の良いところ、悩みを出して解決することが出来るのでは…。
- ・谷岡委員長の話で、世田谷のことが出ましたが、高級住宅有名人が多く人口層が25年後も続くと話されたことにビックリしました。良い場所、土地には人が集まること実感しました。

ファシリテートしていくために関係づくり、場づくり、道筋づくり、行動づくりの4つの必要性を学んだが、どれも人と関わる上で必要であると思った。学校現場でももちろん活かすことができる。特に行動づくりの部分は大切である。人を動かすことの難しさは知っているつもりであるので、自己決定、合意形成の仕掛けをしていくようにしたい。

豊かな学習、活動を継続・発展させるための講演、大変有意義な講演だった。P T A活動ばかりでなく役所勤務を終えた人達の地域活動も少ない。認識と経験を活かして参加してほしい。

2 午後の2事例をとおして、気付いたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かしていきますか。

P T A経験者が地域活動に参加してくれること、若い自分に公民館活動にのめり込んだきっかけになったこと、ともに「楽しい」ということが大事だと思った。行政がやりやすい事業ではなく、真に求められていることを考えていこうと思った。

- ・白石市白川地区の取組から、「地域における公民館の在り方」「公民館の体質改善」について、改めて考えさせられた。「地域の中で、公民館がいかにあるべきか」「何に着目し、注力するのか」「公民館で展開されるべき民主主義はどうあるべきか」など、考えるだけでなく実践・展開しているところに、公民館と地域のパワーを感じた。「地域の目（見方）・声」を、タイムリーに集約し、地域住民と議論し、その後のアクションプランまでたてられるような（地域との）かかわりをしていきたい。
- ・谷岡さんのお話から「己に（社会教育に関する）専門性はあるのか」という命題に対し、十分答えられない自分の現状があることから、猛省しきりであった。市内だけでなく、他市町村の社会教育主事等とつながりを持ち、業務の実際を伺いながら（見学させていただきながら）自己研鑽に励みたい。

話し合いの時にフォアキャストの形式で話すことが多く、やはり事が前進することがあまりない。だから今後バックキャストやポジティブアプローチの手法を取り入れ、事を前進させていきたい。

ファシリテーションの手法、話し合いのポイント、要点が勉強になりました。地域の人々の話し合いだけでなく、学校の子ども同士での話し合い、職員同士の話し合いにも活用できると思いました。学校では年度末に向けて話し合いの機会が増えると思いますので、今日の学びを活かして話し合いを活性化していきたいと思います。谷岡先生の話から市民活動団体やN P Oとのつながりの構築をいかにするのか。社会教育を学んだ者として、学校とN P O団体との関わりについて振り返って考えました。現在も学校にN P O団体や地域の方々に協力していただいておりますが、来年度に向けて、その関係性を発展させるための課題と成果を見直し、つながりを深められるようにしたいと思います。

谷岡さんの話から青年たちが自己表現できる環境づくり、市民同士の対話が重要なことだと感じた。

遠藤さんから教えていただいたファシリテーションの具体は地域づくりでも学校現場でも大切なことだと思いました。「振り返り」が反省を述べるからの発信ではない方法もあることを知って進めていくことで、地域や学校現場での話し合いが明るくなったり、意欲の向上につながったりするのではないかと思います。また最後のシンポジウムは会場の声を聞いてくださる形で行われ、非常に分かりやすく参考になりました。

ワークショップ・シンポジウムでは、グループでの話をもとに核心について質問が出て、とても参考になった。青年層の参加について、そもそも公民館に関心がないのかもしれない。ただ、青年層を活かした事業を設置することで、少なからずその課題が解決されていくのかなと思った。石井山先生も「開かれた公民館」とおっしゃっていたが、公民館の姿勢を住民に伝え続けることで、年数が経ったとしても、地域の中心の存在になるのではないかと思います。人集めのイベント、事業は時として大切だが、発想の転換をしてみることで、結果をすぐに求めず、いつも課題を追究することを学んだように思う。

2 午後の2事例をとおして、気付いたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かしていきますか。

ファシリテートの仕方について、これまでに学んでいたことであっても実際にやる機会がなかったため、忘れていました。確認し直したいと思います。

社会教育主事としての専門性を活かし切れていないと感じるところが自身の課題です。地域の方とコミュニケーションをとり、新しい学びを作り出していけるよう尽力したいと思いました。

公民館は社会教育法にあるとおり、住民主体の場であり、人々の居場所、そして共に考え、共に創り上げる場と考えました。

公民館の衰退もしくは弱体化を食い止めるためにも現行の事業を振り返り、ニーズを把握する必要がある。そのためにもコミュニケーションの充実を図る必要があると感じた。

地域の声を直に聞いて活かすこと。

KPT方については、見える化になっていて、とても分かりやすかったです。今までのように反省点ばかりだと、事業実施者（主担当）にとって、マイナスの気持ちになってしまいます。この部分を改善できる手法だと思いました。今後の事業実施後に活用してみようと思います。

地域性、特色ある行事等、いろいろ考えさせられた。

- ・利害関係者、両者から話を聞くことで、リスクがクスリになる。
- ・白川地区の小野副会長から伺った話が印象的でした。自分の意見と違う人との橋渡しをする大切さ、それが力になる。それを信じて取り組みたいと思います。

最後の振り返りの話し合いで、反省会ではなく振り返りを行ってポジティブな意見を出すことが必要という意見が多く出されました。また、公民館そのものを知ってもらう必要性、熱いハートが大切であるという意見も「なるほど」と思いました。私としては「地域に貢献する気持ち」＝存在感・必要感を育てるにはどうしたらよいか、解決策を考えていきたいと思っています。

ポジティブな体験、手応えのある活動の体験の積み重ねがその後の地域活動につながるというお話が印象に残りました。どの活動においても、また自身にもあてはまることだと思います。そのためにも人との出会い、かかわり、柔軟な捉え方や対応を大切に今後も学んでいきたいです。

私の勤務校でも「反省会」というより「振り返り」を取り入れていきたいです。手法を学ぶことも大切ですが、チームとしてより良いものを作るために行うという意識を参加者が持っていてこそものだと思うので、その点についても忘れずに取り組みたいです。

P T Aのネガティブ体験、まさにその通りだと…。改善策、何かないでしょうか…。

今までの仕事では「事業計画」の方に重きを置いていて忙しさもあり、行った事業等の「振り返り」はしてこなかったが、良かったことから始めて、少しの時間でも職員みんなで「振り返り」をしていきたいと思っています。今回のワークショップで事業を振り返り、自分の考えを述べ（話し）他の人の考えを「聞く」ことの大切さを改めて感じ、気づきました。

2 午後の2事例をとおして、気付いたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かしていきますか。

班になった人だけでなく、別の班の人の考えももっと聞ければ良かった。シンポジウムもとてもためになりました。今後に活かす。

場所が違っていても視点が同じであること、NPO市民団体に変わる団体が当地区にもあるので、つながりを強めていきたいと思います。

振り返りの重要性を学んだ。
谷岡さんの大学で出会った青年教室の経験を職員になり、すぐ行動に移せる行動力に驚き、見習いたいと感じた。

遠藤智栄さんの「振り返り」の大切さ（反省会ではなく）を聞いていて、確かに学校で子どもたちに言うときは「振り返り」を使っているのに、職員同士では「反省会」であったと思いました。また、PTAでのネガティブ体験と地域活動への非参加者の関係について印象深かったです。これまでの経験からも役員ではなくてもPTAに積極的に参加している方は地域とのつながりもできて、笑顔が増えてきていました。しかし実際公民館でも学校でも壁を感じている人が多いのが現状ではないかと思います。蛇田には間もなく大きな公民館が出来ます。自分も個人として公民館に足を運んで、現状を見てみたいと思いました。

大人の事業の方が反省で良かったことを言うことが多い。子どもの事業で振り返りという言葉を用いた。

関係者に伝える

「・・・利害関係者に集まってもらって・・・」。この遠藤智栄氏のお話のなかのフレーズに出会って心が震えるものを感じました。リスクマネジメントとも大いに関係すると考えられるのですが、諸事業等を立ち上げる段階でこの観点があまり意識されず、来賓各位程度で自己完結させてしまっていることです。関係者は実は来賓者の中におられるのではないのでしょうか。リサーチアンテナを高め関係者を把握し、いい意味で事業に巻き込んでいきたいものです。

学校と地域、公民館の連携の重要性をあらためて感じました。

学校現場でもとても参考になる「話し合いの流れ」や「振り返り」の大切さ等を感じた。現場でしっかり実践したい。

- ・谷岡先生の学生の時のお話しのように、市民ファーストで頭を柔らかくして対応したい。
- リスク→様々な人と話し合う。どんなことにもリスクはある。どのようにしてリスクを回避するか？を話し合う。
- 住民主体→地域活動すること→限界がある。
(住民と職員が協力してすること)→全くそのとおりです。これを地域住民はリスクをこわがり何もできなくなっています。

2 午後の2事例をとおして、気付いたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かしていきますか。

私は現在、全て「受け取る側」です。教育も公民館利用も地域活動も、参加する側であったので、運営している側の話やそういう方達と意見交換したことで、参加する側も視野が広がり、活動のバックにあるものを知って、ただ一人で行くのではなく、やれることがあるんだと感じました。

公民館事業について、運営側はこんなにもいろいろ考えて事を進めているのに、いまいち多くの人に届いていない、そんな課題がある中で、公民館だよりなど以外に、もっと知らしめていく方法がないかなと思いました。今後の大学での学びにこの経験を活かしていきます。

P T A活動の質的な変化をどうすべきかを考えてみました。学校現場では役員選びが最も重要な仕事になってしまっています。(時には名前だけでもお借りしたいのですが・・・という言葉も使われています) そもそも何のための組織なのか、何を求められているのかに耳を傾けたいと思います。

教員の立場としてどのように地域とつながることができるのかを考えました。将来を担う子ども達を地域と結び付けるには、我々教員が地域を理解していくことが大切だと感じました。自分達が住む地域の良さを子ども達や保護者から学び、共に活動(行事など)することで児童理解につながり、ゆくゆくは地域と子どもとを結び付けることになるのではないかと思います。(公民館とうまく結び付けて考えることができればよいのですが、難しいです・・・)

よく話し合うことで、いろんな気づきがあった。良い経験の積み重ねが後々に響いてくる。

何か始める場合、現状、課題、目標、手立てと考えがちだが強みを最大限活かせることをやるのもありだなあーと思った。

マイナス (-) →ゼロ0 (±) or プラス (+) →プラス (+) →プラス (++)

行政、指定管理は関係なく、地域をチームにする役割を担う事が出来るのは公民館だと改めて考えました。「学び合い、育ち合う」公民館が、地域の中で大切な存在であり続けたいと思います。

- ・機を逃さずに動く。
- ・振り返りの会を持っていきたいと思った。

谷岡さんとの青年教室の事例と石井山先生の「学生時代の出会いが大事」最近、高校生、大学生とのつながりができているので、出会って良かったと思えるように対应的に接していきたい。



2 午後の2事例をとおして、気付いたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かしていきますか。

職業にしないと地域に関わるのは困難なのだろうか・・・とグループワークの中で出される、皆さんの忙しさに耳を傾けながら苦しく感じた。

複数で話しをすること、聞くことにより沢山の情報の共有、新しい発見が見えるということを再確認できました。

いろいろな人たちとのつながりを持っていくために考えを共有していくこと大切だと思いました。「機を逃さない」ということを大切にしていきたい！

「振り返り」今まで事業後に振り返りではなく反省会をしていた。反省よりも振り返りが必要だと思った。今後、振り返りを取り入れ、事業を改善してよりよい事業にしていきたいと思う。

公民館に青年層があまりこない。その青年層、若い世代を巻き込む事業を今後考えていきたい。

谷岡先生の言葉のひとつひとつが経験から得た、宝石のような言葉だった。指定管理が導入されてから、誰がこんなすぐに結果は出ないけど、大事な話をじっくり教えて下さったろうか？

また、小野さんかの自分と意見の違う人の話を聞いて、認めて、相手の心に橋をかけるという言葉も響いた。これからはじまる次年度の事業計画に活かしたい。

